

6月30日「もう逃げ出さない！」使徒言行録4：1～12 ルカ福音書8：40～48

ペトロとヨハネが神殿にお祈りに向かう途中、「美しい門」と呼ばれるところに座っていた一人の男性と出会いました。彼は生まれて40年間も足が不自由で、そこで物乞いをするしか生きるすべがなかったのです。男性が「何かもらえるのではないか」と期待を込めてペトロとヨハネを見つめていると、ペトロは言いました。「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう！ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい」そして、彼の手を取って立ち上がらせると男性は躍り上がって、歩き始めたのです！周りに居た人達は大いに驚きました。そこで、二人は民衆に教え始めました。人々が十字架につけて殺したイエスがメシアだったこと。死者の中から復活して、信じる者には永遠の命を約束してくださったことを。彼らの言葉を聞いて信じた人は多く、男性だけで5000人にもなったそうです。

ところが、そのことを快く思わない人達がありました。神殿の祭司達、守衛長、サドカイ派の人達です。彼らからすれば、自分達が十字架につけたイエスが救い主だったなんて教えは面白いはずはありません。そこで、適当な口実をつけて二人を捕らえて牢屋につないでしまいました。

翌日、ペトロとヨハネの処遇を決めるために、イスラエルの主だった人達や大祭司の一族が集まりました。そして、尋問が始まります。「お前たちは何の権威によって、だれの名によってああいうことをしたのか!？」私は関西人なので、どうしても関西弁に変換されますが「ここが誰のシマかわかっとなのか？誰に断って布教しとんねん、ワレ！」こんな感じでしょうか？権力者にありがちな脅し文句です。それに対してペトロは臆することなく堂々と答えました。「今日わたしたちが取り調べを受けているのは、病人に対する善い行いと、その人が何によっていやされたかということについてであるならば、あなたがたもイスラエルの民全体も知っていたきたい。この人が良くなって、皆さんの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものです。」こちらを翻訳するとこんな

感じでしょうか？「あんたらが十字架につけて殺して、神さんが復活させられたあのイエス・キリストの名によってですけどなんか文句ありまっか？悪いことして捕まるんならしゃーないけど、俺ら、病気の人治してますねんで！」

議員達はびっくりしました。2重の意味でびっくりしました。たいていの人間は議員達が脅しをかけただけで、恐ろしくなって黙るものです。それが堂々と自分達の正しさを主張し始めたのです。それも、彼らが自分達と同じように高度な教育を受けた者ではなく、何の教養も無い漁師達だと分かったからです。結局、議員達は足を癒された男性を前にしては厳しく問い詰めることができませんでした。ペトロとヨハネがしたことは紛れもなく善いことだったからです。彼らにはこれ以上イエスの名を語ればひどい目に遭うぞと脅すしか方法はありませんでした。ペトロとヨハネは無事に釈放されることとなりました。

皆さんは今日の物語を聞いてどう思われるのでしょうか？ペトロとヨハネは当時のユダヤ社会を牛耳っていた権力者達を相手に一步も引かずに、堂々と戦いました。当時の議員達の力を現代に置き換えて考えることは難しいですが、法律を作る国会議員と裁判を行う裁判所長官と犯罪者を取り締まる警察署長を合わせたようなものでしょうか？そんな人達相手に立ち向かえるのでしょうか？私ならもうお手上げです。もちろん、ペトロとヨハネも最初から立ち向かう勇気があったわけではありません。彼らはイエス様が捕まったときは恐ろしくなり逃げ出したのです。でも今回は違いました。もう逃げません！今度は堂々と立ち向かうことができました。何が違ったのでしょうか。使徒言行録にははっきりと書かれています。8節「そのとき、ペトロは聖霊に満たされて言った」そうなんです。これが聖霊の働きなのです！ペトロは聖霊の助けを受けて、堂々と戦うことができたのです。

今、菅さんの御宅で月に1度行っている家庭集会ではマルコ福音書の通読をしています。2年目でいよいよ佳境を迎え、今回はイエス様が議員たちに捕らえられるシーンを読みました。読んだ後に感想を分かち合います

が、参加してくださっているある方がこんなことを言われました。「イエスは人を癒したり、正しい良いことをしたのに捕まったんですね。結局、黙ってるほうが賢いってことですか・・・」キリスト教の教えの確信を突いた質問だと思いました。そうなんです。私たちは時にそんな場面に出くわします。正しいことをしたほうが割りを食う。悪が栄え、正義はないがしろにされる。結局、黙ってるのが一番賢い・・・イエス様も傷ついた人々を癒し、慰めて生きたのに結局十字架で殺されてしまいます。不遇な人生を辿ったかに思えました。でもそうではありません。イエス様の物語には続きがあります、死んで終わりではない、復活されたのです！神さまはイエスを見捨てられたのではなかった。永遠の命を与え復活させられます。そして私たちにも同じ命に与らせてくださいます。家を建てる大工が「必要ない」と捨てたみずぼらしい石が、新しい家を建てるのに最も必要な隅の親石となるように、私たちを生かす新しい命の最初の一步をイエス様は歩み出してくださったのです。

私たちが自分の命の保護だけを思うなら、正しさなんて求めずに、悪いことをしても、お金を儲けて、人を陥れて、自分だけが得をして生き延びる道を探していけば良いかもしれません。でも聖書はそうは教えていない。隣人を愛するという道を示します。これは自分の命の保護だけを思っているでは決して開けない道です。強盗に襲われ倒れている人の隣を通ったサムリア人は、自分のことだけを考えるならば通り過ぎればよかったです。でも、倒れた人のことを思った時、彼は、たとえ憎しみ合う関係であろうと、倒れた人を助け起こし、ロバに乗せて、宿屋まで運ぶ道を選んだのです。そのような生き方にこそ、本当の命があるとイエスは教えられました。そして、そう生きるとき、私たちは永遠の命、自分だけの命を越えた新しい命に生かされると教えられ、実践され、そして復活されたのです！

ペトロはこの命に生かされるようになりました。だから変わったのです！病人を癒し、正しいことをしている！どうして脅されなければならないのか！イエス様を十字架につけた権力者達を相手に堂々と立ち向かえるようになった。もう逃げ出さなくなったのです！

今日の聖書のみ言葉を聞きながら香港の教会のことを思います。香港で

は、中国からの司法への介入を可能にする「逃亡犯条例」を巡って「香港の独立性が失われる。香港の民主制が失われる！」と人々が立ち上がりデモを行いました。発表では人口 700 万人の香港で 200 万人を超える人々がデモに参加したとのこと。そして、香港のほぼ全てのキリスト教会が民衆を支持し、休息の場所を提供したり、署名を行ったりと協力をしました。決して権力者の側にはつきませんでした。また、このデモの間に、各教会では徹夜の祈祷会が行われ、ある讃美歌が歌われました。Sing Hallelujah to the Lord メソジストの讃美歌です。この讃美歌は運動に参加した人々にも引き継がれ、条例案が撤回されるまで祈りを込めて歌われ続けました。時には対峙する市民と警察隊との緊張の緩和にもなったそうです。この讃美歌が夜通し歌われ続けた、香港立法議会近くの陸橋は「ハレルヤ橋」と呼ばれるようになったそうです。(動画があります)

私は聖霊の力、信仰の力とはそのようなものだと思う。私たち一人一人では立ち向かえないことでも、聖霊の助けを借りて、向かっていくことができる。逃げずに向かっていくことができる。それは文字通り、「力」なのです！イエスは聖霊について弟子たちにこんな風に教えられました。ルカ 12：12「言うておくが、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言ひ表す者は、人の子も神の天使たちの前で、その人を自分の仲間であると言ひ表す。会堂や役人、権力者のところに連れて行かれたときは、何をどう言ひ訳しようか、何を言おうかなどと心配してはならない。言うべきことは、聖霊がそのときに教えてくださる。」

権力者たちとの対峙を終え、仲間達のところに戻ったペトロとヨハネは、神さまに祈りました。どう祈るのか？それは「もう二度とこんな恐ろしい目にあわせないでください」とか「平安をください」ではありませんでした「主よ、今こそ彼らの脅しに目を留め、あなたの僕たちが、思い切って大胆に御言葉を語るができるようにしてください。どうか、御手を伸ばし聖なる僕イエスの名によって、病気がいやされ、しるしと不思議な業が行われるようにしてください。」私たちも同じように祈りたい。聖霊の助けが私たちを大胆に語る者にしてくれますように、共に祈りを捧げましょう！